

流れのほとりて

「教会における女性の奉仕を評価しよう」

「教会の執事で私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します」(ローマ 16:1)



JEA 女性委員会
担当理事 渡辺 昌彦

使徒パウロはローマ人への手紙の最後において、主に多くの同労者を紹介していますが、その筆頭には婦人執事フィベを推薦しています。彼はこの婦人執事を堅く信頼していたと思われまします。私は今日、教会内における婦人の働きを大いに評価すべきと思っています。日本における教会内の男女の比率は、男性 35%、女性 65%とされています。どの

教会を見ても、女性のほうが数が勝っています。教会員の少ない教会では忙しくて礼拝出席はしないが、男性ということで司会の時にだけ顔を見せることもあるようです。また、教会役員も男性が圧倒的に多く、女性は僅かです。反対に教会の掃除は女性で、男性の参加は稀です。その他、お茶だしやご飯づくりなど女性が受けもっています。

日本は長いこと、男性社会でした。仕事も経済も男性が握っていました。社会で働くのは男性、家庭を守るのは女性という役割分担と性差がはっきりしていました。しかし、今は男女共同参画型社会の時代となっています。

進学率も高校では女子の方が男性を超えました。

大学進学において、女子が若干劣るものの大きな開きはありません。このように教育において性差がなくなり、また、多くの女性が社会に進出し、その働きが高く評価されています。一国の党首ともなるのも珍しくない時代になっています。このように社会は大きく変化しています。しかし、教会は依然として昔のままのようになっています。その背後には男性優位と思えるみことばを、封建社会の時代と同じ意味合いとイメージで教会が受けとめているからではないでしょうか。

男性だからといって必ずしも指導者の資質があるわけではありません。また、逆に女性だからといって指導者としての資質がないわけではありません。男性とか女性というより、それぞれの戴いた賜物によって主と教会に仕えるようにするのが最善です。できる力があるのに、女性だからできないとか、させられないが、これは賜物をくださった神に対して申し開きができないことになります。自分に合わない奉仕を男性だからといって強要されるのも問題ですが、女性だからという理由で奉仕できないことも残念です。たとえば男性かならずしも力持ちにあらず、女性かならず掃除が上手、料理が料理が上手とは限りません。

教会はそれぞれ与えられた賜物をもう一度よく点検確認し、それぞれに合った奉仕の場に人々を遣わしましょう。女性が教会においても生き生きと活動し、頭脳的部分においても十分に用いられてこそ、教会内の閉塞感はず払拭されるのではないのでしょうか。女性はかならず期待に応えてくれることでしょう。



☆さまざまな国々の女性の働き (左からケニア [アフリカ]、オアシスリトリート [日本]、NAE 教会 [アメリカ]、EFA 女性指導者 [インド])

《いのちのパン》
キリストは神の姿であられるのに
梅田 登志枝

十六年前、私はフィリピン北部の山岳地帯にある病院のベッドの中で感謝に溢れていました。

突然の大出血から始まった末娘の誕生は私に宣教師としての大切な学びを与えてくれました。孤児院と併設された聖書学校に夫ともに派遣された私は、いつものまにか偉い人になっていました。

しかし、胎児の命に危険が迫り、私自身の意識も遠のく中で、孤児たちは黙々と、古着で担架を作り、私を病院へと運んでくれたのです。

その姿は私にイエスキリストの姿を思い起こさせました。神のお姿から人の姿に、しかも仕える者の姿になってくださったキリストこそ、私たちの模範です。それぞれの立場で仕えることを喜びとさせていただきつつ、生活を送りましょう。

ピリピ二章六、七節。

女性の学び『性差によるのか賜物によるのか』No.5 ~ イエスの教え

○イエスの教えー贖いという枠組み

1. 文化的背景

イエスの生涯に登場する女性たちは主に田舎の出身で、ユダヤ人でした。彼女たちがもっていた宗教上の権利と働きの大半は家庭で参加できるものに限定されていたようです。しかし、家庭の中でさえ、女性がどれくらいトラーを教えたか、あるいは教えられたかは定かではありません。

イエスはこのようなユダヤの社会に入って行かれ、新しい価値、新しい態度、そして新しい習慣を備えた新しい枠組みを啓示なさいました。

2. 新しい態度

ルカ 22 章 24 ~ 30 節において、イエ

スは弟子たちの間の議論に回答する形で新しい共同体は権威ではなく、僕(しもべ)の態度に基づいていると教えています。

3. 新しい価値

イエスのすべての行為：マリヤとマルタとの関わり、月のもので汚れていた女に触れること、井戸辺でサマリヤの女と会話したこと、墓でマリヤに兄弟たちの所に行き語るように命じられたこと、姦淫の現場で捕らえられた女を責めることを拒み、彼女を石打ちにしようとした男たちに罪を投げ返されたこと、譬え話の中に女性を用いられたこと(マタイ 25:1-13; ルカ 15:8-10; ルカ 18:18)ーを総合すると、イエスが女性を高く評価し、女性の尊

厳、人間性、そして霊性を肯定するために当時の社会通念を進んで無視されようとなさったことがわかります。

4. ヨエルの預言の成就

ヨエルの預言の一部だけが「教会時代」に成就したのであって、女が男と共に預言するのは「王国時代」あるいは終りの日まで保留されるであろうと教える人たちもいますが、ペテロ自身がーペンテコステの日に聖霊が男と女の両方の上に注がれたー男女が共に主のことばを語る、すなわち「預言する」ーというヨエルの預言が成就したと明確に断言しています。

《サンデーランチ》

救世軍渋谷小隊 徳永由美

1 週間ぶりに集まった信仰の友が、賑やかに挨拶を交わし、恵みを分かち合う日曜日のお昼のひとときは実に楽しい時間です。

私たちの小隊(教会)では、毎月、第1日曜日のお昼をお誕生者会としています。一応、家庭団(女性の働きの主力)のメンバーから、2名ずつ当番を決めてご奉仕いただいています。毎月、それぞれに献立を考え、食材を揃えて準備していただきます。他のメンバーも次々にお手伝いに加わり、台所の中はお互いに新しい技を学び合う料理教室のようになることもあります。ふと気づくと、最近おいでになるようになった方も自然に野菜を切っていたり、お皿を運んでいたりと、煮物や煮豆を家



から持ってきて下さる方や、思わぬデザートが加わることもあります。テーブル毎に楽しい会話も弾み、お誕生者をお祝いします。片付けは時々男性陣になります。女性たちのやや心配そうな視線を受けながら、エフロンがなじむ人も、なじまない人も快く、懸命に洗い物をして下さいます。

他の週も、第2、4週に街頭生活者のための給食活動にご奉仕くださるご夫妻により、うどんや貝だくさんの味噌汁などが提供されることも多く、ごちそうさまの感謝の気持ちは貯金箱に集められて、毎年行われる海外への支援献金に加えられます。

主にあって「喜びと真心をもって一緒に食事をし…」(使徒言行録 2:46) その祝福を共にする方々が増し加えられるように祈りつつ感謝しています。

《ストレス対処法セミナー報告》

内田 みずえ

リー・ホチキス師とウィルソン・ファン師(バルナバ・インターナショナル)による「ストレス対処法セミナー」が、千葉県市川市のOMF本部にて、3月3日と4日の二日に渡って開かれました。短期間の宣伝にもかかわらず、主催者(OMF宣教団)を驚かせるほど多くの人が集まったのは、この問題を抱えている人、そしてこの問題を抱えている人を手助けしている人の多さと、この種の学びの必要性を物語るものでしょう。

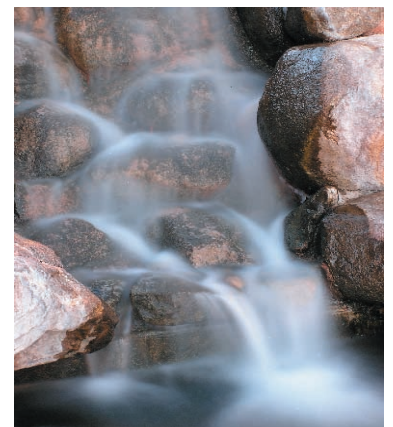
日常生活の中でのストレスの存在を明らかにし、その引き金になっているものを理解し、ストレスに対する反応及び思考パターンを特定し、対処法の原則を聖書から理解し、適用していくことがセミナーの目的でした。

通訳付きの6回の講義は理論的な部分と体験や実例を交えた非常に密度の濃いものでした。講義の後の小グループに分かれてのディスカッションは、

理解を深め、疑問を解き、実生活に適応するのに大いに役立ちました。

セミナーに備えて読んだホチキス師著の"Handling Stress Effectively"のはしがきに「ストレス下の自分の反応に対して無慈悲なまでに正直でなければならぬ」ということばに恐れをなしつつも、「聖霊の導きの中で自己管理の計画を立て、生活のすべての分野を聖霊の支配の下に置く努力をするなら、変化が起ってくる」ということばに励まされてセミナーに参加しました。

今まで漠然と考えてきたことが整理され、新しい洞察が与えられ、具体的な方法や手段を手にする中で、「生活のすべての領域において恵みの福音にとどまりつづけること」の大切さがひしひしと迫ってきました。ホチキス師はこれを「はしご思考」ということばで説明していますが、詳しく知りたい方は、セミナーに合わせて出版された「聖書流ストレス対処法」(いのちのことば社発行)をどうぞお読みください!



《JEA 女性委員会メンバー》

委員長: 丸山園子(同盟基督)

委員: 高橋芳江(JECA)

八木橋みどり(バプ教会連合)

ドロティア・ランハンス(JEMA)

梅田登志枝(インマヌエル)

徳永由美(救世軍)